

超希釈尿療法

「尿飲療法」については、ご存知の方も多いかと思います。中尾良一医師が始められた、自分の尿を 100ml~200ml 飲む療法で 1990 年頃から広がってきています。有名な芸能人にも行っている方がおられるようです。血液をろ過して出てきたものですから、大便とは全く違います。皆さんも経験がおありのように、さつまいもを食べるとさつまいもの匂いが、コーヒーを飲むとコーヒーの匂いが、アイスクリームだとアイスクリームの匂いがしばらくして尿から匂ってきますよね。このように尿には自分の食べたもの、病気がある場合はそこからの分泌物が微量出てきます。吸入物や接触物でも血液中に取り込まれれば、尿中に出るでしょう。このような自分のフレッシュな情報が、何とか利用できないかと思い、O-リングテストで診るのですが、ごく少量の尿（例えば 1ml）でも、体には有害、と出るのです。

そこで経口免疫療法を始める時の量を O-リングテストで見つけていくように、希釈シテストを続けて行きました。希釈するにつれ有害性は急速に低下し逆に体に有効となっていきます。どこまで希釈すれば体に最適となるのだろうと、調べていきます。たいていの方は 1 億倍くらいの希釈で体に最適で、自然かつ安全、安価な万能薬ともいえる「水」ができます。作り方は簡単でどなたでもご自分に最適な「水」を作ることができます。まず朝一番の尿を採りそのうちの 1ml をガラス瓶に入れ 100ml の水を足し耳かき 1 杯ほどのミネラル塩を加えよく振ります。その中の 1ml を採り、残りを捨てます。そこに 100ml の水を加え、ミネラル塩を同じように入れよく振ります。同じことを 4 回行うと 1 億倍になります。こうして作った「水」を、少しずつ飲んだり、皮膚に塗布したり、目を洗ったり、などに使用します。瞑眩（または好転反応とも）が起きる事もありますが、その際は、1 滴か、さらに少ない量で続けると反応が無くなり少しずつ増やしていけます。しかし、量よりも回数を多くすると、より効果が出てきます。

現代は数多くの汚染物質や環境中のアレルゲン、食物アレルギーや添加物アレルギーにより心身に病的異常をきたしている方は多く、治療も複雑になっています。また薬剤の副作用も無視できなくなっています。この療法は不思議なことによく振ることで有効性が高まります。100 回から 200 回激しく振ります。飲む前にもよく振ります。おそらく尿の持つ個別の情報を、水に転写してその情報水が効いているのだと思います。朝忙しい方は夜に作ってもかまいません。またミネラルの多い水を使うのであれば、ミネラル塩を加える必要はありません。化学物質過敏症の方で、症状が良くなりスーパーにも行けたり、長年の成人アトピー性皮膚炎の方で内服、外用薬が不要になったり、胃腸の調子が悪く常に不快感があった方が快調になり、花粉症に悩まされていた方も症状が無くなり、うつ状態の方も改善されました。忙しいときは二日に 1 度作っても構いません。冷蔵庫には入れないほうが良いと思います。また急に症状が出てきたときはその時点で作成すると、より有効です。試したい方は、ご相談ください。